

【資料 1】

都市拠点公共施設整備に関する 市民広聴会の開催結果について

【資料 1-1】都市拠点公共施設整備に関する市民広聴会開催結果（概要版）

【資料 1-2】議会審議・市民広聴会における意見・論点及び検討の方向性

【資料 1-3】多極ネットワーク（都市拠点、地域拠点）形成の考え方について

都市拠点公共施設整備に関する市民広聴会 開催結果（概要版）

1 開催概要

10月19日から25日の間、町毎に市内6会場で市民広聴会を開催し、のべ169人の参加者から様々なご意見をいただいた。

（1）実施内容

整備事業の概要、議会審議結果等についての説明
質疑応答、意見聴取

（2）会場別内訳

会場		開催日時	参加人数
丹後会場	丹後庁舎2階204会議室	10月19日(日)10:00～11:30	12人
弥栄会場	弥栄庁舎3階大会議室	10月19日(日)14:00～15:30	14人
久美浜会場	久美浜庁舎2階大会議室	10月23日(木)19:00～20:30	48人
大宮会場	アグリセンター大宮1階視聴覚室	10月24日(金)19:00～20:30	30人
網野会場	アミティ丹後2階研修室	10月25日(土)9:30～11:00	26人
峰山会場	峰山地域公民館1階大会議室	10月25日(土)14:30～16:00	39人

2 主な意見内容

整備事業や施設機能の必要性に賛同し早期整備を求めるといったご意見や、人口減少対策としての先行投資であるといったご意見があった一方で、将来的な財政負担に対する不安や、他事業との優先順位、地域間格差の拡大や一極集中に繋がってしまうという懸念、アクセスの問題、身近な場所での整備や既存施設を活用した施設整備等も検討すべきといった、事業の見直しを求めるといったご意見も多くいただいた。

※各会場での発言内容、意見書（紙、WEB）、市HP意見フォームから主な意見を抜粋

<意見抜粋>

（1）施設整備の必要性、機能等に係る意見

ア 複合施設・拠点施設整備の意義

- ・ 図書館は、昔のように静かに本を読む場所というだけではなく、文化度、郷土の誇りといったものを全て培う場所だと思うので、これだけ自然豊かな京丹後のなかで、ちゃんとコアになる部分を身に着けていくうえで一番重要な場所だと思っている。
- ・ 子育てだけの施設を1つそこにつくるのではなく、多様な人が行きかう場所をつくるということがこれからの京丹後市の発展においては重要だと思う。
- ・ 子育てや図書館だけではなく、盲導犬を連れた方や障害のある方、高齢者など、色々な人が気楽にいける場所が今必要だと思う。福祉の分野からも幅広く考えていただきたい。

- 子育ての現場では、病児保育の必要性に関する声がある。そのようなことを施設に入れられたり、図書館を広々ととって災害時に拠点となるようにしたりなど、付加価値についての考え方がもう少しあればよい。それだけ事業費がかかるならもっと他に利便性を高められるようにこうしようというような方向の検討もあっていいのではないかと思う。
- 計画施設は、市のシンボリックなものになり、未来へ発信していく拠点施設である。市がまちづくりの姿勢を示すことで、民間が入ってくることにつながる。まちは、民間が自然発生的につくっていくものであり、我々がつくっていくものである。そこがあるから人が集まる、そういったものをつくっていかなければならない。

イ 人口減少対策としての将来への投資

- クリーンセンターは必ずしなければならない整備事業であり、これは「守る」事業だが、都市拠点公共施設の整備事業は「攻める」事業。「攻める」事業とは、市がどう人口を維持していくのか 子どもを産み育て、安心して生活していけるまちにしていけるための事業であり、「攻め」の施設をつくらないからといって「守り」の施設にお金を振るというものではない。
- 少子化の中、集落には子供が1～3人しかいない集落もあり、親同士の交流もできなく孤立していく状況もあり、また移住してきた人も交流や相談のできる施設は必要だと思う。
- 50 億は使いすぎでそこまで望んでいない。人口減少対策についても、2 人目、3 人目を産みやすくする助成金や無償化があればよいと思う。
- 人口対策の一番の問題は大学卒業者にあう働き場所や、ある程度の収入のある安定した働き場所があることだと思う。公共施設があれば人口が増えると思えない。

ウ 子育て世代のニーズ

- 宮津市の「にっこりあ」や豊岡の「ワックトヨオカ」を利用することが多い。暑いときや雨のときに遊ばせるスペースがあると、すごく利用しやすいので、是非整備してほしい。
- 京丹後市には屋内の遊び場が無い。建設することには賛成しているが、整備するにしても時間がかかり、その間は屋内施設が無いので、既存施設を利用するなどの代替案は並行して検討できないか。
- 新しい施設を建ててほしいというのではなく、土日祝でも、雨の日でも、兄弟一緒に過ごせるところが欲しいというのが子育て世代の意見。時間的にも経済的にも余裕がない中で、子どもを育てようという気持ちを持ちにくいというような状況もある。
- 新しい建物を建てるよりも、保育園の環境改善や病児保育の充実、子育て支援センターなどの既存の施設の充実などの、毎日使える支援、身近な場所で安心して使える環境を望んでいる。

(2) 財政的な持続可能性と優先順位に係る意見

ア 高額な整備事業費・維持費に対する将来的な財政負担への懸念

- 高齢化が進み人口が減少する見通しの中で、年間 1 億円、2 億円の維持費を捻出しながら、今は財政は健全かもしれないが、将来を考えた時に何が起こるかわからない中で非常に不安。

それだけの予算があれば、地域の要望や学校の空調などの環境改善に充てられないのか。

- 聖域なき歳出削減をもって財源にあてるという答弁があるが、他のコミュニティの予算等を削ってまで建てるということだと思うが、そこをもう少し考えて欲しい。その地域に見合った体力のなかで事業を行っていかないと、将来に禍根を残す事業にならないか。
- 設備の老朽化、維持管理にかかるお金がとて上がってくると思う。色々な老朽化している建物の設備をこれから見ていくのに、この新しい施設をつくと維持管理にお金がかかると思うので、そこが心配になっている。

イ 他事業との優先順位付け

- 財政に余裕があるのなら、住民が切に要望することに、子どもたちの命や健康を守ることに税を使ってほしい。
- 政策の趣旨はよくわかるが、財源の問題である。優先順位というが、地区要望、小学校の体育館の空調を後回しにしている。安全・安心の方が大事なのではないか。1/50 の予算があれば、地区要望がすべてできるのではないのか。なぜ、複合施設整備の優先順位が一番高いのか。

(3) 都市拠点への集中、代替案の検討に係る意見

ア 地域間格差の拡大、一極集中への懸念

- ふるさとを守るために6町合併したが、一極集中になりすぎている。
- 東京都と同じようなまちづくりをやろうとしているが、端々の丹後町などは人口が減少している。このまま減っていくと、間もなく無くなってしまう。峰山の方にバスで行こうと思うと往復400円かかるし、時間もかかって1日つぶれる。そのような状態では図書館もいけない。中央集権化的なまちづくりは反対。
- 地域拠点と都市拠点の機能的接続について、地域拠点にこういう機能があって、都市拠点の機能によってさらにこの機能が強化される、さらに住民の暮らしが豊かになっていくというビジョンが明確に見えてくると、都市拠点の必要性がさらに見えてくる。都市拠点ありきで地域拠点のイメージが見えてこないことで、都市拠点は本当に必要なのかという意見になってしまう。

イ 身近な場所での整備、既存施設の活用

- 子育て施設は、小規模多機能のほうが効果があるのではないのかと思う。車で20分～30分かけて行くのではなく、近所にあるのが重要ではないのか。公民館や会館が貸出で埋まっているところはないと思う。今ある建物をつかって今でもできる。
- 施設を新たに作るだけではないと思う。既存の空き施設を使った場合はどうなのか、比較検討してやるものではないか。
- 雨の日に遊べる場所がないのは事実で、峰山にできれば行くとは思いますが、今、これだけの予算を使ってまでこの場所が必要なのかと言われればそうではなく、既存の今あるところで、近くであって、公園のように気軽にいける場所を求めていると思う。

- とりあえずすぐに施設整備をという意見もある中で、京丹後市内では小学校の統廃合も進み、空いた校舎や保育園等の空き施設、老朽化している施設があると思うが、そういうところを拠点にするとか、その施設を解体して新しい施設を持っていくといった考えはないのか。
- 廃校を利用するという案について、建物の耐用年数を考えると、そこにお金をかけて恒久的に利用していこうとするのは最終的には無駄になる。全て直さなければならない。

（４）立地、アクセスに係る意見

ア 商業機能集積エリアに整備する意義

- 京丹後市は子どもが３人、４人という人も多く、多世代同居もあるので、子ども達が遊べて、お昼ご飯も済ませられて、買い物もできる。そういったことを１か所で済ませることができるとことを考えると、商業機能に近い中心地に複合的に施設を建てるというのはありがたいかなと思う。
- 都市拠点エリアにこの施設は建てていただきたい。廃校になった小学校のような今ある施設を拡張するというような形では絶対にだめで、子どもや若者だけではなく、高齢者も含めてみんなが集まれる、そして、買い物のついでにちょっと寄っていこうかと思えるような地域に建てていただきたい。

イ 車の運転が困難な方にとってのアクセス性

- いかに市民が使いやすいかということが大切。中高生のことを考えた時に、峰山駅の周辺の方が使いやすいのではないかな。市域が広いので、バスの結節点も含めて場所を慎重に選んだ方が良さそう。少なくとも交通が全て利便性の良いところにすべき。
- 車に乗らない子供や老人は、どうやって図書館へ通うのか。交通手段があったとしても、遠方から多くの交通費を使って１日ばかりで行くのならば本を取り寄せた方がよほど良いだろう。

ウ 交通量、安全確保への懸念

- エリアの検討について、交通量があるなかで交通安全が保たれるのか疑問がある。お年寄りが怖くて行けないという懸念がある。
- ９５台の駐車場を確保することだが、そこに子連れのお母さんや子どもたちが来た場合に、交通事故や交通量のことで何かトラブルにならないかということが心配

（５）管理運営に係る意見

ア 望ましい運営手法

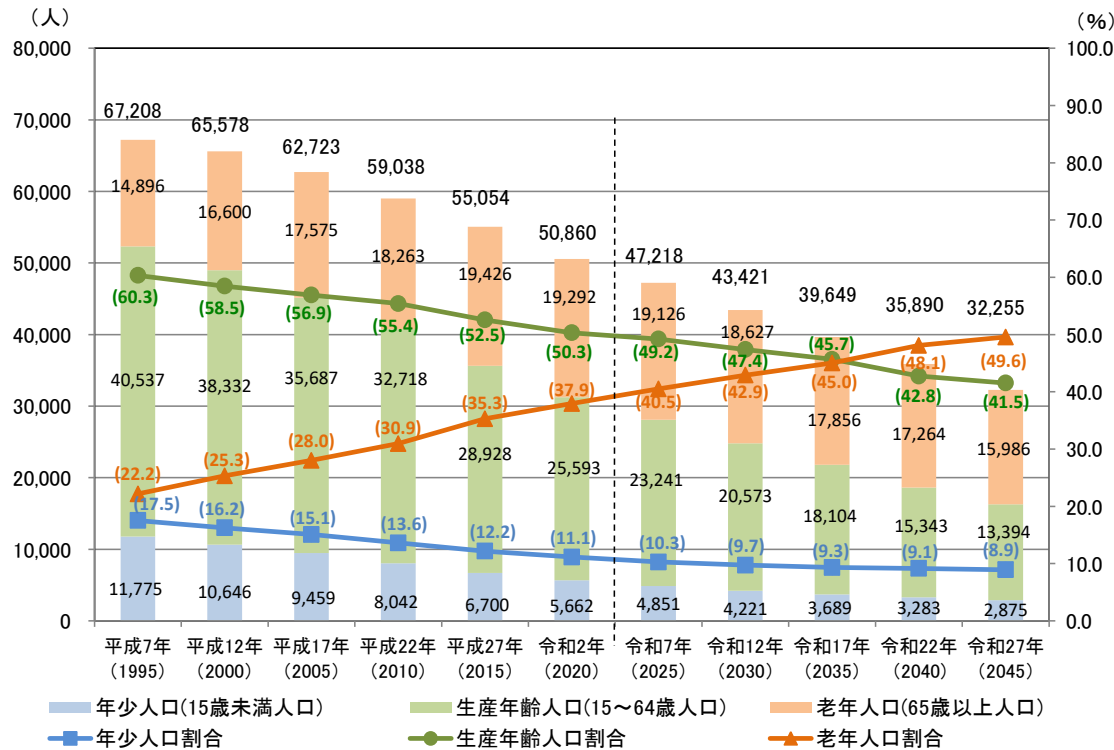
- 図書館に指定管理はなじまないと思う。確かにサービス向上するかもしれないが、それを上回るデメリットがあると思う。それ以上に私が危惧するのは、図書館・子育て支援施設も都市拠点施設として、まちづくりの中心をしようとしている。京丹後市が理念をもって、市の人が運営していかなければ、人も育たないし、まちづくりの理念も活かされないということになると思う。

論点	意見	検討の観点・役割
① 財政的な持続可能性への懸念	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の市民の資産となる施設への計画的な先行投資であり、不健全な借金ではない。 ・イニシャルコスト・ランニングコストが高額で将来負担が増える。 ・財政健全化指標には余裕がある。 ・現状の財政健全化指標に余裕があると思えない。 ・他の施設の統合等についても併せて議論すべき。 ・生活基盤整備や修繕、長寿命化等の事業を優先すべき。 ・中期展望以降の大型事業（クリーンセンター等）の費用が見えない。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・高額な整備事業費、維持費をかけるのであれば、地域の要望や学校の空調などの環境改善に充てられないのか。他事業と比べて複合施設整備の優先順位が高いということか。 ・聖域なき歳出削減をもって財源に充てるとのことだが、他の予算を削ってまで建てるべきものなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の大型事業も含めた財政見通し ・施設の整備・運営に係るコスト縮減、収入確保等の方策検討 ・公共施設の統合も含めたあり方検討 <div>京丹後市</div>
② 市民への説明・合意形成の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・答申やアンケート、都市拠点構想等で一定市民ニーズは取り込まれており、合意形成も図られている。 ・事業自体の認知度が低く周知不足であるとともに、市民や議会への説明が不足している。 ・用地取得の可能性、過疎債の活用等を鑑みると今が最善 ・基本計画変更の際に説明及び合意形成が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な情報発信、意見聴取等の検討 <div>京丹後市</div>

論点	意見	検討の観点・役割
<p>③ 立地・規模・機能の妥当性への疑問</p>	<div> <ul style="list-style-type: none"> ・商業施設と隣接することで地域経済の活性化に寄与する。 ・一極集中が加速し、地域間格差が拡大する。均衡ある発展に反する。地域拠点整備とバランスをとるべき。 ・整備場所は都市拠点の中に必ずしもこだわらなくていい。 ・子育て支援機能、図書館機能は人口減少対策として重要 ・高齢者利用や市民ホール機能が欠如している。 </div> <hr/> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・一極集中になりすぎている。中央集権的なまちづくりは反対。 ・公共交通機関で峰山まで行こうと思うと、お金も時間もかかり行けない。公共交通の利便性が良いところにすべき。 ・地域拠点と都市拠点の機能的接続について、地域拠点の機能が都市拠点によって強化される、さらに住民の暮らしが豊かになっていくというビジョンが明確に見えてくる必要がある。 ・障害のある方や高齢者など、色々な人が気軽に行ける場所が必要。福祉の分野からも幅広く考えるべき。 ・災害時の拠点機能など、付加価値を高め、利便性を高める方向での検討も必要。 ・シンボリックな施設として、未来へ発信していく拠点施設であり、市がまちづくりの姿勢を示すことで民間が入ってくることにもつながる。 ・こどもが少ない集落では子育て世代が孤立する状況もあり、移住者にとっても交流や相談のできる施設は必要。 ・高額な事業費をかけてまでの整備は望んでおらず、人口減少対策としても、助成金や無償化、大学卒業者に見合った働く場所を整えることが有効 ・子ども達が遊べて、お昼ご飯も済ませられて、買い物もできる。そういったことを1か所で済ませることができるということを考えると、商業機能に近い中心地に複合的に施設を建てるというのはありがたい。 ・交通事故や交通量のことが心配 ・図書館の役割は、文化度、郷土の誇りといったものを全て培う場所に変わりつつある。 ・都市拠点エリアにこの施設は建てていただきたい。廃校になった小学校のような今ある施設を拡張するというような形では絶対にだめで、みんなが集まって、買い物のついでに寄ろうと思えるような地域に建てていただきたい。 </div>	<div> <ul style="list-style-type: none"> ・都市拠点形成、多極ネットワークのまちづくりの意義整理 ・都市・地域拠点の役割整理及び整備方針検討 ・都市拠点エリア内の適地要件の検証 </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・都市拠点検討会議 ・京丹後市 </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・投資効果を最大化する付加価値の検討 </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・都市拠点検討会議 ・こども未来審議会 ・図書館協議会 ・京丹後市 </div>

論点	意見	検討の観点・役割
④ 整備手法、運営手法	<ul style="list-style-type: none"> ・複合施設として新たに整備することが効果的であり、他市事例からも明らか。 ・既存施設の活用や分散整備といった可能性から検討すべき。 ・時代の流れによりニーズや状況も変化するため、中期的な施設整備や段階的整備も検討すべき。 ・図書館を指定管理により運営することに不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>複合施設整備の意義の整理</u> ・<u>既存施設を活用した施設整備の検証</u> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・都市拠点検討会議 ・京丹後市 </div>
	<hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てだけの施設を1つつくるのではなく、多様な人が行きかう場所をつくることが重要 ・屋内のあそび場整備には賛成だが、整備まで時間がかかるため、既存施設を利用するなどの代替案も平行して検討できないか。 ・新たな施設整備ではなく、土日祝日、雨の日でも兄弟一緒に過ごせるところが欲しい。保育園の環境改善や病児保育の充実、既存施設の充実などの毎日使える支援や身近な場所で安心して使える環境整備を望んでいる。 ・子育て施設は公民館などの今ある建物を使って、近所にあるほうが効果的ではないか。近くにあって公園のように気軽にいける場所を求めている。 ・すぐに整備をという意見もあるなかで、廃校などの空き施設を活用したり、その施設を解体して新しい施設を整備するといった考えはないのか。 ・廃校を利用する案について、建物の耐用年数を考えると、そこにお金をかけて恒久的に利用しようとするのはお金の無駄になる。全て直さなければならなくなる。 ・サービス向上するかもしれないが、図書館に指定管理はなじまないと思う。理念をもって、市が運営していかなければ、人も育たないし、まちづくりの理念も活かされないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援（ハード・ソフト）の充実検討 ・身近な場所での子育て支援の検討 ・施設整備までの代替案の検討 <div> <ul style="list-style-type: none"> ・こども未来審議会 ・京丹後市 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の望ましいあり方、運営方針の検討 <div> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館協議会 ・京丹後市 </div>

1 人口の動向



・2005年（合併当時）
 約63,000人
 ・2045年（推計値）
 約32,000人
 ・2045年の高齢化率
 約50%

※実績値の総数には年齢不詳を含む
 資料：実績値は「国勢調査」、推計値は
 国立社会保障・人口問題研究所推計

2 まちづくりの課題

人口減少、少子高齢化が急速に進む中で直面する課題

（１）人口密度や土地利用密度の低下

人口減少等に起因する都市の低密度化。市街地の商業的魅力の減退

（２）都市機能の維持困難リスク

一定の人口密度に支えられてきた医療・福祉・子育て支援・商業等の生活サービス（都市機能）は、都市の低密度化が進むと将来的にそれらサービスの提供が困難になりかねない。

（３）インフラの維持管理コスト

道路、水道、公共交通網といったインフラの維持管理コストについて市民一人当たりの負担増大。老朽化したインフラの更新、維持コスト

3 多極ネットワークによる「多彩で強靱な一体型のまちづくり」のねらい

人口減少・少子高齢化が進展し、生産・消費等の地域経済の縮小が懸念されるなか、持続可能な都市を形成するとともに、未来を担う若者世代を含めて人々を惹きつける都市を目指す。

- ⇒・核となる拠点（都市拠点、地域拠点）を形成するとともに、拠点間を道路や鉄道、公共交通といったリアルな連携及びデジタルネットワークによる連携により結ぶ「多極ネットワーク」を構築
- ・地域公共交通計画に基づき、鉄道や路線バスを中心として、交通空白地有償運送、mobi（AIオンデマンドモビリティ）など地域の実情や特性に応じた地域内交通を確保

<期待される効果>

（１）生活利便性の維持・向上

サービス産業等は立地場所における需要（密度）が高いほど生産性が高くなるため、都市機能維持に寄与する。アクセス確保などの利用環境の向上。

（２）地域経済の活性化

サービス産業等の生産性向上。域外消費流出の抑制。投資の誘発

（３）行政コストの縮減等

行政サービス・インフラの維持管理の効率化。地価の維持及び固定資産税収の確保

1 商業機能集積地への立地の意義

- (1) 施設利用者の利便性向上
- (2) 地域経済の活性化
すでにある商業機能に加えて都市機能が集積することによる生産性の向上、多様なサービスの活性化。集客効果や滞在時間の増加等による消費拡大。域外消費の抑制
- (3) エリア価値の維持・向上
地価の維持・向上。市外からの集客や効果的な魅力発信等による市域全体の価値向上
- (4) 公共交通の利便性向上
京都丹後鉄道の新駅設置検討が進むことで、都市機能が向上する可能性

2 施設の複合化の意義

- (1) 各機能の連携による相乗効果
施設やサービス利用のきっかけの多様化。サービスの質向上。集客力の向上
- (2) 多世代交流、市民生活の質向上
世代や属性を超えた交流の促進。安らぎや発見、学びの場の提供による市民生活の質向上
- (3) 行政コストの縮減
単独施設として複数の施設整備をする場合と比較してインフラ等の一部施設の供用化による整備コスト・維持管理コストの縮減。既存施設の統廃合による行政コストの縮減

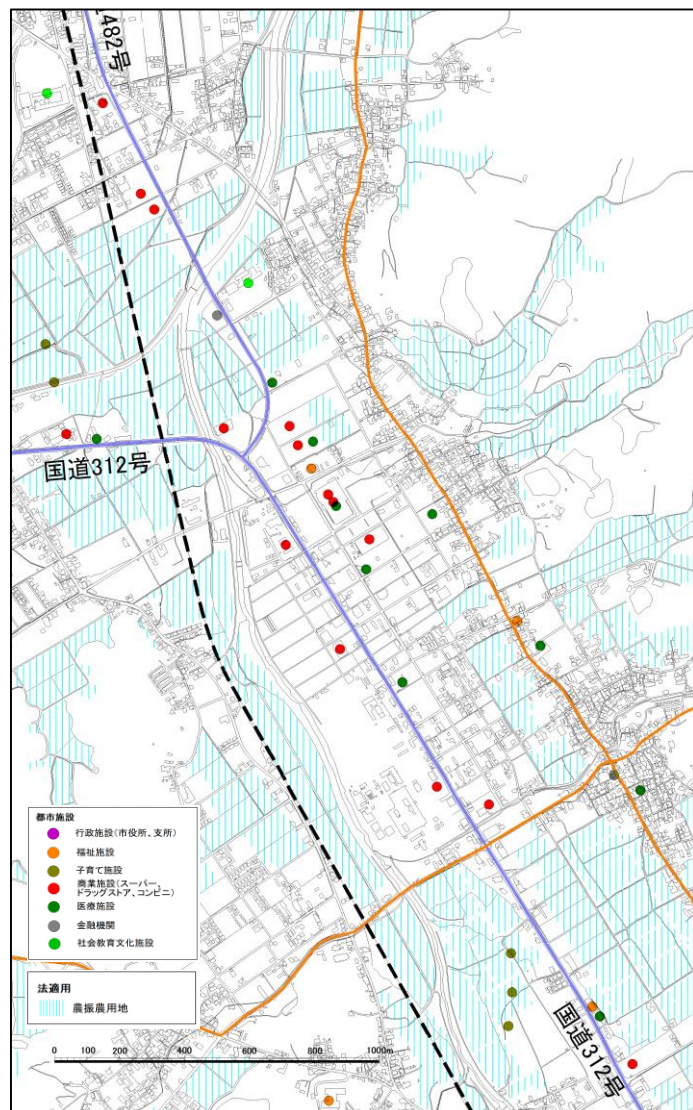
3 都市拠点エリアにおける複合施設整備（都市拠点公共施設整備）の意義

人口減少や少子高齢化への対応、市域全体の地域経済活性化に寄与すると考えている。

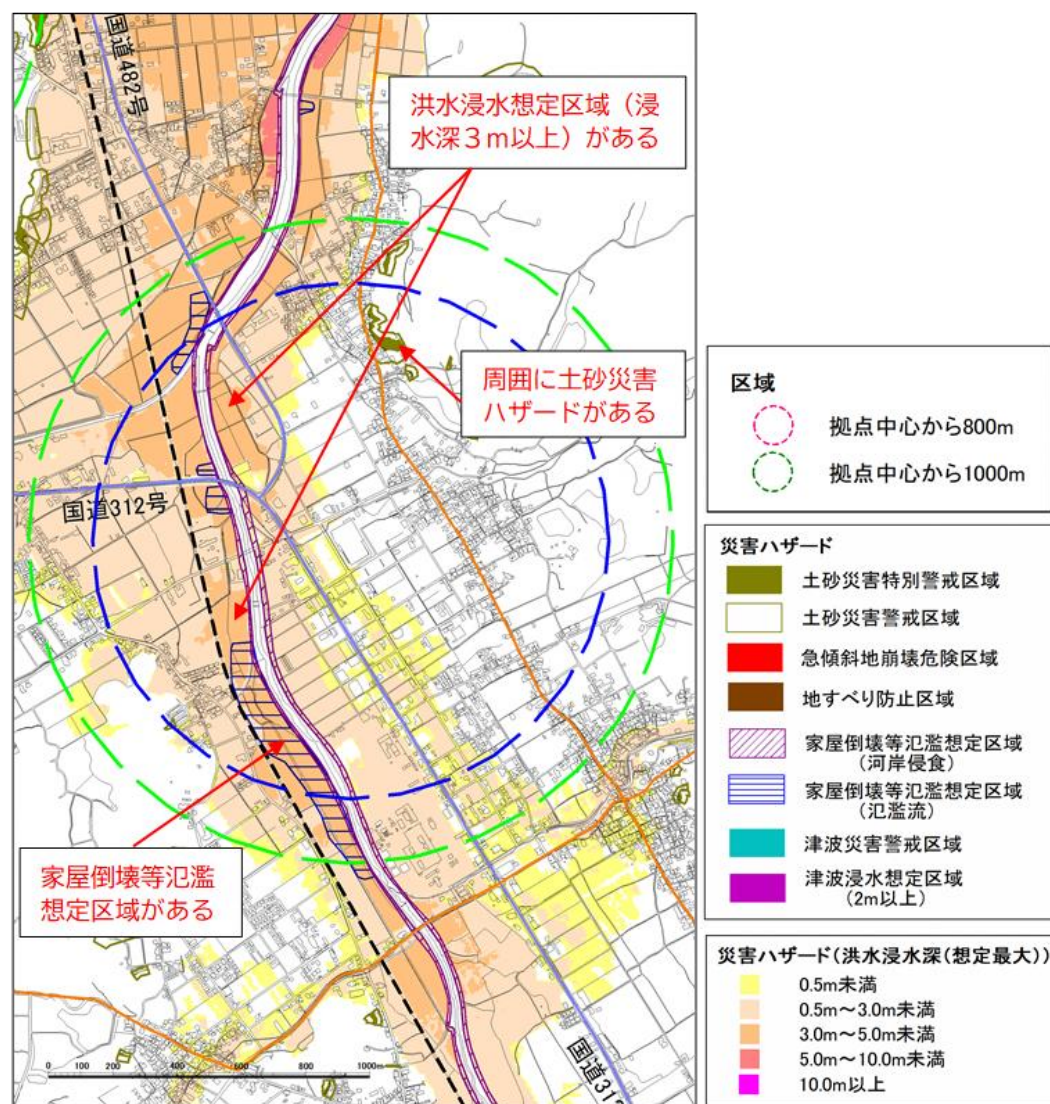
- (1) 子育て世代の定住促進
屋内のあそび場と併せて母子保健機能や相談機能といった切れ目のない包括的な子育て支援を行うことで、子育ての負担軽減を図るとともに、子育てしやすい環境としての認知を広げ、子育て世代の転入促進、転出抑制を図る。
- (2) 高齢者の生きがいや健康維持
図書館や多目的室等における生涯学習の促進。多世代交流による生きがいや健康維持の増進
- (3) 人流の創出と消費拡大
多様な目的の施設利用者を集客し、安定的な人流を創出。施設利用をきっかけとした購買や公共交通機関の利用等の機会を増進し、消費拡大につなげる。
- (4) 災害に強い防災まちづくりの実現
避難所機能も兼ね備えた施設整備による災害リスクへの備え

4 都市拠点エリア内の土地の諸条件

＜土地利用規制、都市施設の状況＞



＜災害リスク＞



既存施設（長岡小学校）活用のケース想定（1/2）

	既存施設活用（長岡小学校）
施設概要	<p>【所在地】 峰山町長岡60番 【立 地】 高台に位置し、敷地にアクセスする市道は幅員6m 【建築年】 S56年（築年数44年） ※旧耐震：H21診断済（IS値：1.18、0.84）、耐震性あり（IS値が0.7以上） ※改修等：R3～4トイレ洋式化改修工事（下水道接続含む） ※空調化：普通教室のみ済（特別教室未） ※LED化：未 【規 模】 建物敷地：8,970㎡、グラウンド：6,645㎡ 延床面積：2,916㎡（長寿命化計画から） 内訳：教室棟（2階建て）1,423㎡、管理等524㎡、体育館735㎡、給食棟234㎡※倉庫40㎡、プール付属室49㎡、長岡放課後児童クラブ54㎡除く 【アクセス】 丹海バス：延利線（長岡公民館前）、峰山線（米川）、丹後峰山線（米川） 計3路線 ※バス停から校舎までは徒歩10分程度</p>
整備概要	<p>【フロア・諸室の活用想定】 教室棟1・2階（放課後児童クラブ使用分除く教室等）：1,174㎡⇒図書館 体育館：589㎡⇒屋内あそび場 【想定改修内容】 ①内装改修、②内部・外部建具改修、③ユニット改修、④EV設置、⑤キュービクル改修、⑥自家発電設備新設⑦照明器具改修（LED化）、⑧空調改修、⑨駐車場整備、⑩玄関廻り屋根新設、⑪駐輪場新設、⑫体育館内装改修、⑬体育館空調化、⑭外壁改修、⑮屋上防水改修</p>
特記事項	<p>【廃校後の利活用想定】 放課後児童クラブ 長岡放課後児童クラブ（教室1室54㎡）+いさなご放課後児童クラブ（（教室2室×56㎡）+ランチルーム130㎡）⇒計296㎡ 【制約】 RC壁の一部撤去の可能性については構造計算等に基づき検討が必要 長岡小学校体育館は指定避難所に指定されており、現状のままでは屋内あそび場の活用には一定の制約がある。 【その他】 改修範囲内でアスベスト含有のおそれのある建材がある可能性が高い（旧丹波小学校（S53建設）調査より）</p>
スケジュール	<p>【供用開始までのスケジュール】 R8：基本設計、R9：実施設計：R10：改修工事⇒R11供用開始 【中長期的なスケジュール】 R10：改修・長寿命化⇒R23（2041年（築60年））：大規模改造⇒R43（2061年（築80年））：改築or解体</p>

既存施設（長岡小学校）活用ケース想定（2/2）

	既存施設活用（長岡小学校）
初期費用	<p>概算事業費：約20億4千万円 ＜内訳＞ 【基本設計】約5,300万円 ※設計・監理は工事費の15%として試算 【詳細設計】約1億2,500万円 【監理】約8,700万円 【改修工事費】約17億7,500万円 ※改修経費の試算は公共施設更新費用試算ソフト（地域総合整備財団作成）の単価を活用、新設部分については庁舎整備検討時に行った旧丹波小学校活用パターン試算を準用し、それぞれに物価上昇率を乗じて行ったもの。</p>
改修コスト	<p>概算事業費：約2億円（R23（大規模改修）） ＜試算＞ $144,242 \text{千円} \times 1.38 \text{（物価上昇率）} = 199,054 \text{千円} \approx 2 \text{億円}$ ※144,242千円：学校施設の長寿命化計画における教室棟、管理棟、屋内運動場、給食棟の大規模改修経費試算額</p>
メリット	<p>【早期整備が可能】 個別の屋内のあそび場、図書館（延床としてはあみの図書館規模）の施設整備が可能</p> <p>【初期費用が安価】 初期費用が約20億4千万円と新規整備に比べて安価（実質負担額21億5千万円（一般財源：5億1千万円、元利償還額16億4千万円 ※過疎債を充当しない想定。一般事業債という交付税措置のない起債充当となる。）） ただし、16年後には大規模改修、21年後には建物の耐用年数目安である築65年が経過し、修繕や改築、建て替えなどに係る経費も想定する必要がある。</p>
デメリット	<p>【都市拠点形成につながらない】 「多極ネットワークによる多彩で強靱な一体型のまちづくり」のための都市拠点エリア形成につながらない。</p> <p>【複合施設整備が困難】 図書館面積を基本計画の半分程度まで縮小したとしても、母子保健機能やこども部、相談室、多目的室、カフェといった各機能を整備することは、仮に放課後児童クラブでの活用を見直したとしても困難 あそび場と図書館等の施設機能は建物に分かれるため、同一建物内で相乗効果を発揮するという狙いの実現が困難</p> <p>【財源（国交省）の活用が困難】 国交省の補助金「都市構造再編集中支援事業」の充当が困難（立地適正化計画において都市機能誘導区域に位置づけたエリア内における対象施設整備が補助要件となるが、立地条件から当該区域に位置づけることが困難であるため）</p> <p>【アクセスが悪い】 施設付近まで路線バスが乗り入れていないことから、車での来所が基本となり、峰山図書館同様に高台への立地となることから、アクセスの悪さが課題となる。</p> <p>【構造上の制約】 一定、教室の区切りのなかでしか諸室のレイアウトができないため、運営の効率性を高めることが困難で、場合によっては運営コストが高まる可能性がある。死角も多くなるため、安全面でも不安がある。</p>